

道路空間を活用したエリアマネジメント事例：新虎通りエリア

森記念財団研究員
滝 典子

エリアマネジメント団体(以下、エリマネ団体という)による道路空間を活用したオープンカフェの設置やイベントの開催が全国各地で進められている。弊財団の所在地である虎ノ門には、選手村とスタジアムを結ぶ重要な道路の一部として位置付けられる新虎通り(外堀通りから分岐して第一京浜までの地上部)があり、ここでは、道路を賑わいの場として活用する他、[都市再生整備計画](#)に指定された広幅員歩道部の沿道一体を活用した賑わいづくりや魅力の発信が行われている。



新虎通りの範囲(出典：一般社団法人新虎通りエリアマネジメントのウェブサイト)

2017年には、当時全国465自治体が加盟する「[2020年東京オリンピック・パラリンピックを活用した地域活性化推進首長連合](#)」(以下、[首長連合](#)という)の総会を虎ノ門ヒルズフォーラムで開催し、新虎通りの道路内建築を中心に展開されている「[旅する新虎マーケット](#)」(後述する現「[旅するマーケット](#)」)の実施状況や今後の展開、自治体観光PRのための企業との連携事業についての講演も行われた。今回は、新虎通りでエリアマネジメント活動(以下、エリマネ活動という)を行う[一般社団法人新虎通りエリアマネジメント](#)とその活動を取り上げる。



旅するマーケット(提供：森ビル株式会社)

■新虎通りのエリアマネジメント

新虎通りエリアでは、活動の方向性や方針を決定する「新虎通りエリアマネジメント協議会」(対象エリア内の土地所有者、建物所有者、借地権者、借家権者等で構成)と、協議会の決定に基づき、具体的な活動を行う「一般社団法人新虎通りエリアマネジメント」(協議会の会員に属し、同会の対象エリア内で土地又は建物を所有する者／以下、本エリアマネ団体という)が連携・協力し、両輪でエリアマネを推進している。そのうえで、地元の意向を汲み、賑わいのあるシンボルストリートにするべく、地元住民を巻き込んだ活動を行っている。

活動は、[認定 NPO 法人グリーンバード](#)と本エリアマネ団体が交互に毎週行うごみ拾い、打ち水(2016年7月)、[東京新虎まつり](#)(2016年11月)や[東京ハーヴェスト2018](#)(2018年10月)といった社会実験(国家戦略特区制度に基づく占用特例を活用)としてのイベントやオープンテラスの実施、その他道路内建築の利用やビジョン・ルールの策定等にも携わっている。

本エリアで初めて開催された大きなイベントは、東日本大震災からの復興を願い、東北が誇る六祭りを一堂に会した東京新虎まつりのメイン「東北六魂祭パレード」である。パレード自体は、2011年の仙台市に始まり、2016年6月の青森市での開催で東北6県を一巡し、ひとつの節目を迎えた。これを機に復興の歩みをさらに進め、東北の未来を力強く跳躍させることを目的として、新虎通りに集結した。東京都、アーツカウンシル東京および東京新虎まつり実行委員会(本エリアマネ団体、株式会社クオラス)が主催者となり、本エリアマネ団体はイベントの企画・実施・運営業務を担当した。道路使用許可を得て車道および歩道の一時封鎖することで、車道では伝統芸能パレードを開催し、歩道の一部を観覧エリアとして利用するといった社会実験を行った。

その後の2017年10月には、本エリアマネ団体が都市再生推進法人に指定された。本エリアマネ団体の組織組成時には、東京都と港区も事務局業務に協力し、東京都が運営費用を負担するといった官民連携まちづくりの推進が図られている。実際にまちなかの維持管理事業に官民連携での取り組みが見られるだけでなく、社会実験としてのイベント実施時には、行政が主催や協力といった形で参画している。このように、行政の理解を得ることはエリアマネ活動を行ううえで大きな後ろ盾となっているが、活動に係る手続きのスムーズ化の実現が今後の課題である。



東京新虎まつり

(出典: 森記念財団第5回都市ビジョン講演会資料)



東京ハーヴェスト

(出典: 東京ハーヴェストのウェブサイト)

■道路を活用したエリアマネジメント活動

2016年10月7日、新虎通りにて「[リオデジャネイロ オリンピック・パラリンピック日本代表選手団合同パレード](#)」(主催:リオデジャネイロ オリンピック・パラリンピック日本代表選手団合同パレード実行委員会)の開会式が開催された。本エリアマネジメント団体は、地元の方々に道路封鎖等のお知らせを周知する役割を担い、結果的に新虎通りを活用した大型イベントとして、1万2,000人が集まる盛況に終わった。

それから間もない2017年2月には、首長連合が新虎通りで日本各地の様々な文化、コンテンツを発信し、観光振興、地域活性化に貢献するための「日本文化のショーケース」ともいえる「旅する新虎マーケット」の展開をスタートさせた。ここでは、日本全国の「ヒト」「モノ」「コト」の魅力を編集、発信し、地方創生へつなげることを目的に、約3ヶ月ごとにテーマを設けて日本全国の様々な魅力を提供してきた。2018年4月には、「新虎通り」から虎ノ門ヒルズ、アークヒルズまでエリアを拡大し、「旅するマーケット」へと生まれ変わった。その中心となるのは日本各地の旬の食材や郷土料理を食す場所「食べる場」、地域に根付く繊細で丁寧なものづくりを体験できる場所「創る場」、そして新鮮な地域の食材や加工食品が買える場所「市場」であり、引き続き日本各地の新たな価値を創造し、発信している。

また、世界的なスポーツのイベントを翌年に控えた2019年3月21日(木・祝)には、「旅するマーケット」周辺で「[旅するいっぴんいち](#)」(主催:首長連合、共催:経済産業省、企画:旅するマーケット事務局、合同会社パッチワークス)が開催された。これは、日本全国から集結した20市町村のキーパーソンが選ぶ、自慢の逸品を一品(1種類)持ち寄った1日限りのマルシェで、商品は農作物から加工品、土産物、お酒、体験まで様々であった。

特に、生で食べても美味しいピーマンの試食に足を止める訪問者が多く、生産者との間にコミュニケーションが生まれていた。また、パッケージにこだわったデザイン性の高い商品もあり、通りがかりの人たちの目に留まることで、日本各地の魅力発信にも貢献をしていた。同時に観光パンフレットの配布も行う等、イベントと関連づけて効果的なPRをしていたようだ。



メダリストパレードの様子

(出典:森記念財団第5回都市ビジョン講演会資料)



旅するいっぴんいちの様子



旅するいっぴんいちの様子

その一方、虎ノ門には土日が定休日の飲食店がある等、まだオフィス街としてのイメージが強い。実際のところ休日に集客を見込むのは容易なことではないが、本イベントでは、開催直後から散歩がてらブースに立ち寄り地元の方もおり、お昼時には平日同様の賑わいが見られた。



観光パンフレット配布の様子

■ロゴマークの作成

本エリマネ団体の活動の中で特筆すべきことは、ロゴマークを作成しているということである。エリマネ活動にてご当地キャラクターの協力を得ることはこれまで全国的に多々見られてきたが、エリマネ活動対象エリアで共通して使用可能なロゴマークを作成するといった例は珍しい。

新橋の「新」と虎ノ門の「虎」を融合させ、日本古来の印鑑をイメージしてデザインしたというこのロゴマークは、グローバルさも兼ね備えているという。作成時には、沿道地域の方々に回答いただいたアンケート結果を参考にデザインを改良する等、地元住民の意見も取り入れた。これも、新虎通りを末永く愛され、親しみのある通りとするための工夫であり、ソフトなエリマネ活動の1つといえる。



shintora avenue

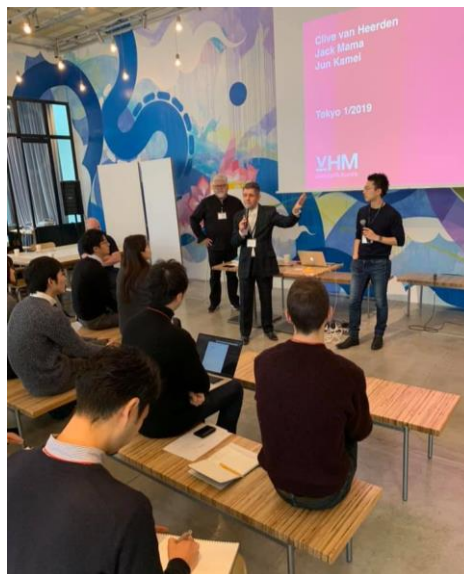
新虎通りロゴマーク

(出典)新虎通りエリアマネジメント

■訪日観光客を意識したエリアマネジメント活動と新虎通りエリアにおける新たな取り組み

近年、世界的に見て日本への注目度はますます高まっており、エリマネ団体の中にもインバウンドを意識した取り組みが見られるようになってきた。その例として挙げられるのが、日本の伝統文化を発信する「[Night Garden in 旧芝離宮恩賜庭園](#)」(一般社団法人竹芝エリアマネジメント)、2017年の日本・アイルランド外交関係樹立60周年記念を機に始まった国際交流を図る「[ふくいパトリックスデー](#)」(まちづくり福井株式会社)等である。その他、国際集客都市・大阪のおもてなし玄関口として世界をひきつける観光拠点にするため、大阪ミナミ・御堂筋エリア(なんば安全安心にぎわいのまちづくり協議会、大阪市、大阪府、大阪商工会議所、四団体で構成する「[なんば駅周辺道路空間再編社会実験実行委員会](#)」等)ではくつろぎの空間創出、観光情報発信等のインフォメーション機能の充実化、歩行者中心の都市空間の整備といったハード面の取り組みも見て取れる。新虎通りで開催されるイベントへの来訪者の大半はまだ日本人であるが、注目されている通りであることから今後訪日観光客の増加が予想される。

昨年10月には新虎通り沿いに「[新虎通り CORE](#)」がオープンし、翌月には、1階の「[THE CORE KITCHEN/SPACE](#)」にて、英国ロイヤル・カレッジ・オブ・アート(Royal College of Art)と東京大学生産技術研究所が共同で運営する「RCA-IIS Tokyo Design Lab」と森ビル株式会社および弊財団が連携して立ち上げた社会人向けラーニングプログラム「[RCA-IIS Tokyo Design Lab DESIGN ACADEMY](#)」が開講した。本プログラムは、「国際新都心・グローバルビジネスセンター」への拡大・進化が着々と進む新橋・虎ノ門エリアを、東京を代表するクリエイティブなイノベーション創出地にすることに寄与している。ここではビジネスパーソンを対象としたワークショップやレクチャー等を通して世界水準の学びや交流の機会を提供しており、イノベーションやデザインを切り口にした取り組みが進んでいる。今後はエリアの特徴を活かした国際的なエリマネ活動の展開に期待したい。



デザインアカデミーのワークショップの様子